

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【交流】

1. 都道府県、市町村 宮城県石巻市^{いしのまきし}

2. 事業者名 あじ朗志組

3. 取組みの名称 心のふるさとづくり ～「網地島ふるさと楽好」等の取組～

4. 取組概要等

概要

網地島は10年ほど前までは約1,000人の人が住んでいたが、著しい人口流出により、現在ではその半数の500人余りとなってしまった。島には小中学校があり、数年前までは多くの生徒が勉強や運動に励んでいたが、網長小学校は平成12年3月に閉校され、網長中学校も平成12年3月に廃校となった。島では元気な子供たちの姿を見かけることは難しくなっている。

地域の草刈り等の環境整備や海岸清掃等について、高齢化率約7割の高齢者ばかりでは対処できなくなっていた。その状況を何とか打開しようと結成したのが、「あじ朗志組」である。

環境整備のほかにも、通れなくなった作業道の復旧作業や昔の通学路等を活かした遊歩道造りに取り組んできた。特に、島民や島外からの方々のための遊歩道造りについては、「平成18年度みやぎ花のあるまちコンクール優秀賞（すばらしいみやぎを作る協議会主催）」を受賞している。

さらに、休校された網長小学校を活用しての「網地島ピアノコンサート」を開催し、島内外から約250名を集めている。網長小学校校歌の演奏の際には、誰からともなく自然に校歌が歌われる。

「網地島ふるさと楽好」の取組

児童養護施設の子供たち（約35名）を島に招待して、子供たちの「心のふるさと」になってあげたいと考え「網地島ふるさと楽好」を開校した。ふるさと楽好では、島の伝統的な魚釣りの「アナゴ抜き」、竹とんぼ・竹鉄砲作り、郷土料理の共同調理を楽しんでもらい、施設では味わうことのできない家庭的な雰囲気味わってもらうことを目的としている。

いつか子供たちが、大人になったときに懐かしんで来られる居場所や生きていく上での心の拠り所としての「心のふるさと」になりたいと考えのもと取組を実践している。そして、網地島の人々は、子供たちが大人になって島に来たときに、いつでもあたたかく迎えてあげたいと考えている。

活動の規模

項目	H14	H15	H16	H17	H18
来客数			20	20	270
解説	単位：人				
イベント回数			5	10	15
解説	単位：回				
イベント参加者			100	200	500
解説	単位：人				

活用している地域資源

- ・ 島の高齢者が長年培ってきた伝統的な魚釣りの技術

「アナゴ抜き」といわれるもので、わずか15cmの糸の先に餌を付け、岩の間に竿の先端を入れて魚を釣り上げる技法。

- ・ 高齢者が子どもの頃に楽しんだ竹とんぼづくりや弓矢づくり

- ・ 島の豊かな食材を活かした郷土料理

「やっきり」は、魚を三枚におろし、骨に付いた身を香ばしく焼き、それを刺身にした身の部分と合わせて味付けした料理。

「トイ汁」は、鯨の肉を使った豚汁。非常にあっさりしていておいしい。

「マルコ汁」は、網地島でたくさん採れる貝を使ったみそ汁。

地域活性化のポイント

観光客を数多く呼ぶといった「経済的価値」の向上を目指した観光ではなく、網地島を理解していただきながら、網地島に来てもらうことや島民との人的な交流によって感じられる「心のしあわせ」を尺度とする新たな観光のスタイルを見出し、島の活性化を図っている。

また、網地島に来た観光客が、島の豊かな自然を十分に楽しめるように、「網地島の四季・花マップ」の作成をかつて網長中学校で教員をしていた「長靴先生」こと高橋和吉先生（野生植物研究所）とともに取り組んでいる。

事業の今後の展開方向

心ない観光客によるゴミの放置や真夜中の騒音、島の現状を理解していない一方的な物言い等で、地域の方々が傷つけられることもあり、あじ朗志組では、これまでの各イベントや島の観光のあり方を反省し、「経済的価値」の向上を目指した観光から、「心のしあわせ」を尺度とする観光スタイルにより、島の活性化を図っていく。

心温まる小さなイベントを、島の住民の負担を考えながら実施し、これらを通じて、失いかけている島の「誇り」を取り戻していきたい。

特に、児童養護施設の子供たちを網地島に招待する「網地島ふるさと楽好」について、関係機関、石巻市と協力しながら継続的に続けていきたいと考えている。

